



Alma Mater

白陵

■白陵会事務局 〒676-0827 高砂市阿弥陀町阿弥陀2260(白陵高等学校内) TEL.079(447)1675(代) FAX.079(447)1677
URL:https://hakuryokai.jp

会長挨拶



会長
天野 泰文



大阪フィルハーモニー交響楽団
学園創立60周年記念演奏会

学園創立60周年記念講演会

白陵同窓会会員の皆様におかれましては、日頃より同窓会活動のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年二月のロシアのウクライナ侵攻により第二次大戦後長く続いた世界秩序が崩壊し、今もウクライナ国内で戦闘が続いており世界情勢は先の見えないカオス状態になっているといっても過言ではありません。日本でも七月安倍元首相の銃撃による死亡という事件が発生するなど、内外とも非常な事態を迎えた一年でした。

しかし、三年間猛威を振るった新型コロナウイルスも四年目を迎え落ち着きを取り戻しつつあり、五月八日より二類から五類に引き下げられる方針を打ち出され、感染者の外出自粛要請、マスク着用などの制限が撤廃されることになるようです。ただ、オンライン会議やリモートワークなど職場環境の変化、ネット通販・電子決済の利用など生活環境の変化など、もはや昔に戻れない「新しい生活様式」時代に突入したといえます。

このような社会情勢の中で、我が白陵会も通年総会、年会費制導入と少しずつ変化をし、また、今年の五十八期卒業生を加えると一万人を超えるに至りました。本会の一年間の活動を振り返ってみますと、三年間中止になった白陵会総会を昨年六月にホテルモントレ姫路で開催することができまし

た。総会では四十三期生の長命(圓尾)友梨医師の「感染症、現場では今」の講演、二十三期生の太田圭亮さんバイオリン演奏など盛大におこなわれました。また、十一月にはコロナ前と同様に理事役員会も開催され同窓会活動も正常に戻りつつあります。

ご承知のとおり、白陵会という同窓会は、白陵卒業生の相互の親睦と母校の発展を図ることを目的として設立された白陵卒業生の団体です。私たちは、高砂市阿弥陀にある樺並木の美しい学園を卒業し、学生、社会人として活動していますが、その折々に知り合った人が白陵の卒業生であるということだけで、親近感がわき、数十年の付き合いのある友人のように感じるのは私一人ではないと思います。私たちは、白陵の卒業生であるという誇りと自信をもって、日々それぞれの仕事などに励んでおり、その中で白陵卒業生と巡り合い、親交を深めてゆくことは、それぞれの人生を有意義にし、奥深いものにすると思っております。白陵会総会もこのような卒業生の再会と出合いの場を提供するといった役割をもっていると考えております。卒業生の皆様におかれましては、引き続きコロナ対策を怠ることなく、来る六月十一日の白陵会総会で元気なお姿を拝見できることを楽しみにしております。



理事長
高藤 興哉

歩み六十年の 重み

白陵会の会員数がもうすぐ一万人を超える由、創立六十周年の準備をしながら、何回か思いました。本校は、現在ある県下の中高私学で若い方から六番目の学校ですから、今のような状況になるには、学園長の強い志と先生方の努力、そして何よりも生徒のがんばりがなかったら不可能でした。

私は、十一月に挙行了した記念式典において、謝辞を述べる機会がありました。直接的には、当日ご出席いただき、ご祝辞を頂戴した天野泰文同窓会長、そして育友会長と後援会長への感謝の気持ちを述べさせてもらったのですが、私の中には、「白陵がここまで来るのに一番功績が大きいのは、今までの生徒すべてだ」という思いがありました。もちろんそれは、在学中の生徒という意味だけではありません。今回編集した『創立六十周年記念誌』に、三木学園長の二十周年記念式典の時の式辞が全文掲載されています。私は初めて園長の生の声、関係者全員に対する叱咤激励の声を聞いた思いがしました。そして、その園長

の言葉をまともに受け止めて自分に鞭打った多くの生徒がいたことを、実感として納得しました。人に分かつてもらう言葉とは、かくも強さと信念を併せ持つていなければならぬのでしよう。

確かに物事は、過ぎ去って時間がたったあとにより明確に見えてくるところがありますが、本校に在学した生徒が、今私たちが想像する以上に苦しい中で必死に努力してきたことは事実です。さらに、それは在学中にとどまらず、それ以後の生活の中でも保たれていったのです。

その『創立六十周年記念誌』を見ると、いかに多くの卒業生がそれぞれ違った分野で自らの活躍の場を築いていることか、まさに人材が輩出している感そのものです。その初め、田んぼの畦道が通学路であったという「小さな白陵」の生徒たちは、学園長の志に応えて自らの道を造り上げていきました。あとに続く本校の生徒は、その卒業生の背中を超えようと思っっています。どうか、白陵会の皆さんには、学園長が期待していた生き方を今後とも貫いて、その歩みの重みの後輩に見せてやっていただきたいと思っっています。最後にになりましたが、白陵同窓生の今後ますますのご活躍を祈念して挨拶いたします。



校長
宮崎 陽太郎

白陵の今

同窓会の皆様には、日頃から本学園の教育活動に対してご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

令和も五年目を迎えました。令和という言葉の美しい響きとは裏腹な四年間でしたが、今年の干支は、十干の最後と十二支の四番目を合わせて癸卯（みずのとう）、音読みで「きぼう」となります。これまでの努力が花開き、実り始めるという意味があります。まさに希望の年と言えそうです。白陵高校の卒業生数は、今春の第五十八期生の卒業をもつて一万七十名となります。一九六三年の創立から六十年目にして一万名を超えることは大変嬉しいことです。

学園創設者の三木省吾先生は、創立二十周年記念式典の式辞において、「今から二十年、三十年とこれまでのペースで常に頑張っていたら、あらゆる意味で日本一の学校になると私は信じて疑わない」と述べています。この火の玉のような信念を持つリーダーを失った白陵のその後四十年は、「白陵史」としてある程度客観的に振り返ることが

できるものとなっています。「現在の白陵の目標は？」との問いには、「播磨地域のナンバーワンの学校を目指している」と答えています。白陵の昔を知っている人からは、なんと志の低いことよ、と言われることもあります。学校の良さは多面的であり一つに力を入れ過ぎると他が疎かになる、価値観の変化に対応することも必要、などといういろいろな言い訳を考えることはできません。しかし、あの五十歳の時の園長の志からは、トーンダウンしているのも確かです。

日本には神様と呼ばれる人がたくさんいます。「経営の神様」と呼ばれた一人が、松下電器（今のパナソニック）を創った松下幸之助で、次のような言葉を遺しています。「失敗を恐れるのではなく、真剣でないことを恐れるたい」。自分に対する戒めとして述べるあたりはさすがだと思えますが、遊びや寄り道に対しても真剣であれ、と言っているように私には聞こえます。今の白陵生たちは、勉強はさることながら、様々な部活や、課外活動に対しても真剣に取り組む者が大変多く、表彰状をあまりにたくさんもらって行くので、その対応に苦慮するほどです。もし園長が生きていたら、この様子を見て、満面の笑みを浮かべるだろうな、とも思う今日この頃です。

寄稿

白陵の思い出



2期生
湖中 明憲

SHOWA GROUP株式会社
取締役会長

確か高校二年生の時に修学旅行に行つて、長崎だつたと思うが、何人かの生徒が夜に旅館を抜け出し遊びに行つたと言われた。その責任は、幹事である湖中の責任だと言われ、園長の授業時に何発ものビンタを食らつたのが思い出として強い。本来なら運動会や文化祭でこれこれだつたと言いたい所であるが、一番の思い出は、やはり何発ものビンタを食らつた事であろう。しかも、何発殴られるか、次は自分であろうと、副幹事の川副君が数を数えていたというから驚きである。川副君は、大学を出て白陵に奉職し、副校長として活躍され、最後は特別参事になった人物であるが、結局、後は殴られずに済んだ。将来白陵の先生として活躍する土台があったのかもしれない。その川副君や磯野君、坂垣君（早くに病気の為逝去）らの友人に恵まれ、今も良き

友人として付き合いがあるのはありがたい。

また、恩師（剣道部の顧問だった藤田嘉久先生、体育の豊田先生）も未だにお付き合い願う先生方である。亡くなられたが、化学の国司先生は、化学の答案用紙にダルマの絵を描いていたのを、「これは、何や？」と言われ、「手も足も出ません、という意味です。」と答えると、いくらか点数を頂いたのも、良き思い出である。その様に、昔（五十六年前）は、ビンタもあるが、ウィットに富んだ先生方も多く、今では考えられない高校生活を送らせて頂いた。また、後輩諸氏にも恵まれ、実社会においても白陵出身の方に大変お世話になり、本当にありがたい学校であると思う。

寄稿

白陵の思い出



14期生
片山 安孝

兵庫県庁勤務

白陵中学へ入学した時のことを思い返すと、あれから50年近くたったのかと、感慨ひとしおです。中学校から6年間、あの学び舎で一緒に過ごした友の顔や世話になった先生方が懐かしく思い出されます。私は白陵から2キロぐらいのところに家があり、6年間自転車通学でした。朝遅い電車で曾根駅まで来て始業時間ぎりぎりとなるため通学路を走っていた友人のカバンをよく自転車に載せて学校まで持つて行った思い出があります。

白陵に入つてみたのはいいけど、一種独特な授業もありました。三木園長の英語の時間、古くさい戦前の英語の教科書にはびっくり。しかし、なんと言つても、同級生の誰もが記憶に残っていると思います。試験で80点以下5点下回ることにつき1発ずつの「園長棒」でのお尻をたたかれるのには参りました。学校帰りの自転車に、お尻が痛くて座れないこともありました。さらに、ドレミの歌にあわせて頭をその棒でたたかれるのは、今から思えば体罰通り越して、人権問題になるのではと思うぐらいですけど、もう昔の話となつてしまいました。

中学1年の時の高山先生からは「最初が肝腎」ということをたたき込まれました。白陵に入学した最初の時期になじみなくてつまず

く者が一定いたと記憶しています。それが、それへの対応で先生は口やかましくおっしゃっていたのかもしれない。この言葉をかみしめて頑張つたので白陵のスタートはなんとか波にのれたと思つています。ところが、中学2年生の後半から成績が落ち始めてメンタル的にも不調になりました。その時に堀先生から「勉強ばかりでなくちよつと運動でもしてみたらどうか」ということで、剣道部に入りました。その後は卒業まで無事に頑張れました。

就職してから、白陵の同窓生であるということいろいろと助けられています。去年は、地元企業が金融機関から借り入れする際の保証を行う兵庫県信用保証協会の理事長をしていましたが、兵庫県に2つある地方銀行のトップが白陵の先輩（みなど銀行の服部会長、但馬銀行の坪田頭取）だったので大いに助かりました。今は、県の副知事に就任していますが、国政では住吉国會議員、市町村では岡田加古川市長が白陵の同窓生です。県議會議員や市議會議員で頑張っている同窓生も多いです。同窓生のつながりはありがたく思っています。

寄稿

名残の

● ● ●



39期生
清水美沙子
白陵職員

私が中学受験をした平成10年は白陵入試初の女子受験の年で、私は白陵中学女子一期生ということになります。平成10年といえば世間では2月に郵便番号が7桁になり、4月に明石海峡大橋が開通し、8月にはiMac発売、と新しい時代の潮流を感じるような出来事がたくさんありました。

この年の女子の入学人数はわずか30人。学年全体が150人なので男女の比率は4:1、割合でいえば女子は全体の20%です。ですが、そもそも合格ラインが初年度のため不明なのに、それでも受験しようという人間が受験をしたわけですから、根本的に、よく言えばチャレンジ精神の旺盛な人物が集まっているという状態で、存在感は十分にあつたのではないかなと思います。先輩方には貴重な女子として大切に扱われ、先生方にも着替えの時間の延長など非常に

優遇していただいた覚えがあります。好きにやっていたなというよりは好きにやらせてもらっていたということが今となっては本当にありがたいばかりです。

現在の校舎は2008年に完全に建て替えられた新校舎で、私自身が学んだ学び舎はもう存在しない……と思いきや、実は意外なところに一部が残っています。というのも、私たち39期生が入学した年に完成した第2校舎の女子トイレは、建て替えの際、実は解体されることなく残り、新校舎に渡り廊下でつながっているのです。トイレの前の廊下の部分も併せて残されたため、この部分も旧校舎の名残となっています。そうして考えてみると、あそここのガラス、あつちのモニュメントと、旧校舎時代から受け継がれてきた場所や物がいくつもあります。今の生徒はそんなことは全く知らず、当たりに校舎を行き交っています。これらのものをふと目にした時には、感慨深い心持ちになります。時代につれ、色々なものがどんどん入れ替わっていきますが、古い



第2校舎女子トイレ

ものも完全には消えず、すこしずつその名残を残しながら、時代は進んでいくのだな、と。

寄稿

あの時代だったからこそ経験できたこと



49期生
今井 雄大
在学時代は柔道部に所属。

私の在学期間は2008年～2014年(49期生)になります。学生時代の思い出は喜怒哀楽たくさんあるのですが、今回このようなお話をいただき、改めてあの頃を振り返ってみました。

49期生ならではの、という思い出は2012年のロンドン修学旅行でしょうか。2012年はロンドンオリンピックがあった年で、オリンピック直前のタイミングでイギリスを訪れることができました。ロンドン橋のそばに五輪の大きなエンブレムがあり、着々と準備が進んでいる雰囲気を感じました。

大英博物館のガイドの方に英語で質問してみても話が成立したり、20時くらいになってもまだ外

が明るかったり、初めての海外で今まで知識だったものが体験に変わっていく感覚が楽しかったです。

また自身のパーソナルな思い出としては、中学生時代に映画鑑賞にハマったことが後の人生にも大きな影響があったと思います。

ハリウッド映画やアクション映画のエネルギーと私の「中二病」の受け皿が上手く合致した結果、友人達と明石や加古川、三宮の映画館に行ったり、近所のTSUTAYAを物色したり、ネットで映画ニュースサイトを閲覧したりと、どっぷり映画文化に浸かるようになりました。白陵でも英語や歴史の授業などで映画を観る機会が何度かあり、その時はテンションが上がっていた記憶があります。

当時は「アバター」(2010)を筆頭に3D映画たちが本格的に公開されはじめ、「アベンジャーズ」(2012)シリーズといった世界観が共通するシリーズ形態が商業的に成立する(いわゆる「映画のユニバース化」)など、新しいエンタメ映画の波が来ていたように感じます。※またNETFLIXなど配信サイトが台頭する前の最後の期間でもありました。

そしてなんとと言っても、休み時間中に友人達と映画の話や、キャラクターの物真似をして馬鹿らし

く戯れあっていたことが、映画好きになった原初体験であり、かけがえのない思い出になっています。

寄稿

自陵の味わい方



60期生
小山 英真
高校1年

好きな科目は、と問われたら物理と地理、と答える。理由は共通している。日常に応用の効く考え方の枠組みを得られるからだ。運動方程式の立て方を習得すれば、動く物体を見たとき、どのように力がかかっているか予想することができる。砂漠ができる地域の特徴を知れば、遠く離れた場所が同じ原理で同じような気候になっていることを知ることができる。けれど全ては分からない。机の上で物体の速度を求められたとして空気抵抗や摩擦を無視していたりするし、同じ気候であっても文化が全く一致するということがない。その、理論を学べばある程度現実には迫れるが、それは必ず「ある程度」止まりである所が、

知るほどに知りたくなる理由だと思ふ。

私は文系に進むつもりだが、文理関係なく、古典も数学も歴史も英語もだいたい好きだ。それは、やはり中一の頃からずっと白陵の先生方に教えてもらっているからだと思う。楽しそうに授業をされる先生方の姿から「これを知ったら、あれを理解したら、世界の見え方がこう変わるよ」ということを学べたからだと思う。「何のために勉強しなければならぬのか？」という中高生の間には一度はぶつかる壁に、「したいからすればいいじゃん」という最も単純で、最も魅力的な答えに出会えたことは私の財産になるだろう。大学で、一つの専門分野を追究する前に、たくさん先の学問を少しずつつまみ食いできる。そんな「学問ビュッフェ」としての白陵をこれからも味わい続けたい。

寄稿

中2初めてのスキー実習



49期生
福永 航平
白陵中教員

2月2日から4日の3日間、62期中学2年生と鉢伏高原にスキー実習に行きました。以前中学2年生は、毎年7月にキャンプに行っていました。それが代わる学年行事として今年初めて実施することになりました。昨年度の中1校外オリエンテーションは新型コロナウイルス流行により中止になってしま、学年として初めての宿泊行事です。実習前は成功するかドキドキしながら準備を進めていました。スキー実習の前週には記録的な大雪が降り、雪の状態も万全。目的地に近づくにつれ、どんどん雪化粧になっていき、バスの中の生徒のテンションも上がっていききました。生徒の大部分が初級コースを選択するほどスキーに慣れていない学年でしたが、転倒しながらも着実に上達していききました。生徒たちは毎日「楽しかった!」という表情で宿舎に戻っていました。

またスキーだけでなく、学年全体で盛り上がるレクリエーションもありました。2日目の夜、全員が宿舎のホールに集まり、全体の前で各クラスの出し物をしました。この日のために、2か月前から各クラスが準備を進めていました。劇やダンスと各クラスの出し物は様々でしたが、出し物をするクラスだけでなく、他クラスの生徒も観客としてレクリエーションを盛り上げよう



とする姿を見て、今まで見たことのない学年全体のパワーを感じました。「あ、今回実施できてよかった」と心から感じた瞬間でした。

解団式で高見団長が「学校として初めてだったが、最高のスキー実習だった」とおっしゃった時には、私も内心ホッと胸をなでおろしていました。普段の生活ではなかなか見ることができない生徒の表情を見たという意味で最高の実習だったと感じます。その後の学年主任からの「楽しかった非日常から日常につなげてほしい」という講評で幕を閉じたスキー実習でしたが、今回の実習で再確認した生徒たちのエネルギーを今後の学年の教育活動につなげていかなければいけないと痛感しております。

白陵会News

白陵生の活躍 (二〇二二年二月以降)

<p>二〇二二年 二月九日</p>	<p>山梨学院大学主催の第二十三回酒折連歌賞において、中学一年浅田悠斗君が一般部門で甲府市長賞を、中学一年齊藤葵さんがアルテア部門で特選を受賞しました。</p>	<p>十一月三日</p>	<p>神戸市立スポーツセンター体育館柔道場で行われた、兵庫県教育委員会主催の第四十六回兵庫高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門において、高校二年織田愛乃さんがA級で優勝、高校一年小山英真さん、西川沙紀さんがB級で三位に入賞しました。</p>
<p>五月四日</p>	<p>県立尼崎稲園高校で行われた兵庫県高等学校文化連盟、兵庫県高等学校将棋連盟主催の第四十九回兵庫県高校将棋選手権大会男子団体戦において、高校三年星野諒君、井上桜太郎君、高校一年上杉文彌君のチームが優勝しました。八月三日・四日に東京都港区で開催される第四十六回全国総合文化祭(第五十八回全国高等学校将棋選手権大会)に、男子団体戦、女子団体戦に出場します。</p>	<p>十一月十二日</p>	<p>デザインクリエイティブセンター神戸(KIITO)で行われた、兵庫県教育委員会主催の第四十六回兵庫県高等学校総合文化祭文武部門コンクールにおいて、俳句部門で高校一年千籠心菜さん、文芸部誌部門で「紅炎 令和四年号」が優秀賞を受賞し、二〇二三年度開催される近畿高等学校総合文化祭(三重大会)に参加する権利を得ました。その他、全五部門、九作品で入賞しました。高校一年山下ゆのさんが短歌部門で優良賞と俳句部門で入選、高校一年 瀬谷真帆さんが詩部門と俳句部門で入選、高校一年 森和香子さんが散文部門と短歌部門で入選、高校一年 松安澄鈴さんが俳句部門で入選を受賞しました。</p>
<p>六月四日</p>	<p>高砂市総合体育館で行われました、兵庫県高等学校体育連盟 兵庫教育委員会主催の第六十六回兵庫県高等学校総合体育大会柔道競技、女子個人試合七十八kg超級において、高校一年 岡井美樹さんが第三位に入賞しました。</p>	<p>十一月十二日</p>	<p>高砂市総合体育館で行われた、兵庫県高等学校体育連盟主催の第七十一回兵庫県高等学校新人柔道大会において、高校一年 岡井美樹さんが女子個人七十八kg超級で第二位に入賞し、二〇二三年一月二十一日に開催される近畿高等学校柔道新人大会に出場することとなります。また、女子団体で第九位に入賞し、二〇二三年一月二十九日に開催される第六十四回近畿高等学校柔道新人大会へ出場権(十四年ぶり十度目)を得ました。</p>
<p>八月六日</p>	<p>第一〇四回全国高校野球選手権大会の開会式で高校二年 濱邊真緒さんが司会を務めました。</p>	<p>十月十八日 ～ 二十日</p>	<p>兵庫県立美術館王子分館(原田の森ギャラリー)で行われた、兵庫教育委員会主催の第四十六回兵庫県高等学校総合文化祭書道展において、高校二年 半田輝莉さんが全国総文推薦賞を受賞し、二〇二三年度、鹿児島県で開催される全国高等学校総合文化祭に出品・出席することになりました。</p>
<p>八月二十二日 ～ 二十六日</p>	<p>オンラインで行われた、東京工業大学・大阪大学主催のSuperCon2022本選全国大会において、高校二年 鴨川颯君、代谷駿樹君、安積知史君のチーム「ainib」が第十五位を獲得しました。</p>	<p>十一月十九日</p>	<p>兵庫県立明石北高等学校で行われた、兵庫県高等学校教育研究会英語部会主催の第二十五回兵庫県高校生英文エッセーコンテストにおいて、高校一年 野村多真希さんが、一年の部で優秀賞(二位)を受賞しました。</p>
<p>八月二十三日 ～ 二十六日</p>	<p>姫路市アクリエひめじで行われた、物理オリンピック日本委員会主催の物理チャレンジ第二チャレンジ全国大会において、高校三年 西川諒君が銅賞、高二 安積知史君が優良賞を受賞しました。</p>	<p>十一月二十三日</p>	<p>神戸松蔭女子学院大学で行われた、兵庫県教育委員会主催の第四十六回兵庫県総合文化祭放送文化部門において、高校二年 濱邊真緒さんがアナウンス小部門で金賞(二位)、高校二年 川淵百華さんが朗読小部門で銅賞(四～六位)、ラジオ番組「Only you」が、テレビ番組「ウノノウタ」が銅賞を受賞しました。</p>
<p>九月十七日 ～ 十九日</p>	<p>山形県鶴岡市の慶應義塾大学鶴岡キャンパスで行われた、国際生物学オリンピック日本委員会主催の日本生物学オリンピック二〇二二本選において、高校三年 森悠華さんが銅賞を受賞しました。</p>	<p>十一月二十六日 ～ 二十七日</p>	<p>和歌山県和歌山市和歌山ビッグウェーブで行われた、和歌山県教育委員会主催の第四十二回近畿高等学校総合文化祭和歌山大会将棋部門において、高校一年 山本楓さん、安達優菜さんが女子団体戦で第五位に入賞しました。高校一年 上杉文彌君、富岡知真君、橋本真莉登君も男子団体戦に出場しました。</p>
<p>十月二十九日</p>	<p>神戸市甲南大学で行われた、兵庫県教育委員会主催の数学・理科甲子園二〇二二において、高校二年 安積知史君、森田有亮君、小前颯史君、立宅優来君、井上愛菜さん、高校一年 五月女雅希君のチーム「4STEPS」が優勝しました。二〇二三年三月十七日～二十日、茨城県つくば市で開催される第十二回科学の甲子園全国大会に、兵庫代表として出場することになりました。</p>	<p>十一月十九日</p>	<p>全国高等学校文化連盟主催の第三十七回全国高等学校文芸コンクールにおいて、高校一年の森和香子さんが小説部門で優良賞を、「紅炎 令和四年号」が文芸部誌部門で優良賞を受賞しました。</p>
<p>十一月三日</p>	<p>兵庫県神戸市灘高等学校で行われた、兵庫県教育委員会主催の第四十六回兵庫高等学校総合文化祭将棋部門において、高校一年 山本楓さんが個人戦で第三位に入賞しました。</p>	<p>十一月十九日</p>	<p>兵庫県立明石北高等学校で行われた、兵庫県高等学校教育研究会英語部会主催の第二十五回兵庫県高校生英文エッセーコンテストにおいて、高校一年 野村多真希さんが、一年の部で優秀賞(二位)を受賞しました。</p>

白陵会役員名簿

氏名	期	役名	氏名	期	役名	氏名	期	役名	氏名	期	役名
会長	3	天野 泰文	常任幹事(総務)	9	手井 幸男	常任幹事(HP)	37	亀山 信生	常任幹事(総務)	54	篠田 侑果
副会長	2	湖中 明憲	// (研レ)	10	加藤 雅宣	// (総務)	38	上野 紘之	// (総務)	55	東村 颯起
//	10	服部 博明	// (総務)	12	西庵 利彦	// (総務)	38	堀 素史	// (総務)	55	三木 万梨子
//	15	町田 直隆	// (研レ副委員長)	13	矢野 善人	// (HP)	38	住吉 寛紀	// (総務)	56	武田 千輝
理事(研レ)	3	神吉 裕資	// (総務)	14	片山 安孝	// (総務)	39	堂國久美子	// (総務)	56	田中 詩歩
// (会計・総務)	4	岸本 和男	// (総務)	14	竹中 邦夫	// (総務)	39	根木 厚	// (総務)	57	荒井 奏音
// (HP委員長)	6	長野総一郎	// (総務)	16	田中 正一	// (総務)	40	赤澤 剛	// (総務)	57	吉尾 侑悟
// (総務)	8	黒川 仁	// (総務)	18	秋田 直樹	// (総務)	40	廣江 祥子	校内幹事(総務)	3	黒田 洋
// (研レ)	9	村角 伸一	// (総務)	19	牛尾 英樹	// (総務)	41	竹内 雅浩	// (総務)	11	小紫 一貴
// (研レ委員長)	10	吉田 達哉	// (総務)	21	河合 恵介	// (総務)	42	賀川 拓哉	// (総務)	12	畔上 昇
// (研レ)	10	下村 康夫	// (研レ)	22	野津 康弘	// (HP)	42	宮崎はる香	// (総務)	12	山口 透
// (広報副委員長)	11	志方 正彦	// (研レ)	23	中里 寛	// (HP)	43	八杉 佳奈	// (総務)	12	中村 大吾
// (総務)	11	来栖 昌朗	// (総務)	24	奥本 光廣	// (総務)	44	立田 裕昌	// (総務)	14	久保 博彦
// (広報委員長)	13	水田 堅	// (総務)	24	藤原 省悟	// (総務)	44	恒光 綾子	// (総務)	15	村上 幸生
// (総務)	13	飯島 義雄	// (総務)	25	多根 正明	// (総務)	44	上月 理加	// (広報)	15	西 善弘
// (総務)	15	福永 安洋	// (HP)	26	大西 康記	// (HP)	45	三浦 学登	// (HP)	37	神尾 祐輔
// (総務委員長)	17	岡野 清和	// (総務)	27	山田 将義	// (総務)	45	坪谷 沙紀	// (総務)	39	石岡 知久
// (会計・HP)	19	尾上 尚樹	// (広報)	28	柿本 晴彦	// (HP)	46	戸田 美希	// (HP)	39	清水美沙子
// (総務)	20	石井 秀武	// (HP)	29	岡田 康裕	// (総務)	46	宮脇 規壽	// (総務)	41	垣内 康孝
// (総務)	23	譜久山 剛	// (研レ)	29	浜田賢太郎	// (総務)	47	戎 直哉	// (広報)	43	野瀬 彩弥
// (研レ)	26	萩原 唯典	// (HP)	30	上新 貴弘	// (総務)	47	中谷 英巴	// (広報)	44	山田 祥五
// (研レ)	29	山下 展成	// (研レ)	31	後藤 大悟	// (総務)	48	井上 千華	// (広報)	45	井上 遼介
// (研レ)	35	中村 亮太	// (総務)	31	酒井 雅史	// (総務)	48	建石 真一	// (広報)	46	神田 澄恵
書記(総務)	36	杉岡 央基	// (総務)	31	木下 智晴	// (総務)	49	立石裕之輔	// (総務)	49	福永 航平
会計監査(広報)	28	上山 奉伯	// (HP)	31	村山 稔	// (広報)	49	橋本 瑞季	// (総務)	50	中村 聖
// (研レ)	35	安田 孝弘	// (総務)	32	酒井 勇人	// (総務)	50	池上 学歩	顧問(理事長)		斎藤 興哉
常任幹事(総務)	1	芝本真須美	// (総務)	32	小澤有紀子	// (総務)	50	津田 彩花	// (校長)	11	宮崎陽太郎
// (広報)	1	正井 和野	// (総務)	33	藤井 拓郎	// (総務)	51	佐々木優一	// (教頭)		高見 繁統
// (研レ)	4	森崎 晴知	// (総務)	33	北尾由美子	// (HP)	51	笹久保茉奈	// (元特別参事)	2	川副 義文
// (総務)	5	塩崎 育男	// (広報)	34	上垣 孝俊	// (総務)	52	稲垣 大翔	// (元会長)	1	遠山 寛
// (研レ)	5	橋本 義仁	// (総務)	34	牧野 琢丸	// (総務)	52	富木 琴乃	// (元会長)	1	黒川 芳一
// (研レ)	6	福井 孝昌	// (総務)	35	阪本 覚	// (総務)	53	岡田 弦大	// (前会長)	3	沼田 好道
// (総務)	7	萩本 義郎	// (研レ)	36	近藤 理恵	// (総務)	53	後藤 真由	// (前副会長)	6	上田 喜裕
// (広報)	8	前川 裕司	// (総務)	37	岸上真紀子	// (総務)	54	佐々木仁哉			

(令和5年3月1日現在)

東京白陵同窓会開催のお知らせ

久しぶりに東京地区での同窓会を令和5年6月24日(土)午後2時より開催することに決定いたしましたので、ふるってご参加願います。尚、場所等の詳細は後日、白陵会ホームページに掲載いたします。

東京白陵会 事務局 小川 俊二

令和3年度 収支決算報告書

令和3年4月1日～令和4年3月31日

単位/円

収入の部	予算額	決算額	差異
前年度繰越金	14,474,607	14,474,607	0
会費収入	4,800,000	4,800,000	0
会費 (57期生)	2,820,000	2,835,000	△15,000
会費 (1～51期生)	1,800,000	1,965,000	△165,000
総会費	180,000	0	180,000
会費外収入	21,000	426	20,574
名簿収入	10,000	0	10,000
広告収入	0	0	0
利息収入	1,000	426	574
雑収入	0	0	0
寄付金	10,000	0	10,000
記念総会積立金繰入収入	0	0	0
合計	19,295,607	19,275,033	20,574

令和3年度 会務報告

実施日	内容	場所
令和3年6月25日	理事・役員会	ホテルモントレ姫路
令和3年11月3日	りょうゆう会	相生カントリー倶楽部
令和4年2月11日	第57回 白陵高等学校卒業式 〔会長出席 卒業記念品贈呈〕	白陵高等学校
令和4年3月	会報第41号発行	

支出の部	予算額	決算額	差異
事務費支出	1,235,000	184,484	1,050,516
会費管理手数料	110,000	114,510	△4,510
消耗品費	50,000	3,970	46,030
印刷費	50,000	0	50,000
通信費	1,000,000	59,624	940,376
支払手数料	20,000	6,380	13,620
雑費	5,000	0	5,000
会議費支出	450,000	198,110	251,890
理事会費	200,000	99,055	100,945
役員会費	150,000	99,055	50,945
委員会費	100,000	0	100,000
事業費支出	2,150,000	1,494,544	655,456
総会費	500,000	0	500,000
名簿発行費	0	0	0
会報発行費	1,100,000	1,030,245	69,755
ホームページ維持費	200,000	220,000	△20,000
卒業記念品費	200,000	214,203	△14,203
慶弔費	150,000	30,096	119,904
備品費支出	0	0	0
OB会活動助成金	300,000	210,000	90,000
渉外費支出	110,000	0	110,000
予備費支出	100,000	0	100,000
寄付金	0	0	0
小計	4,345,000	2,087,138	2,257,862
記念総会積立金	200,000	200,000	0
学校寄付積立金	500,000	500,000	0
次年度繰越金	14,250,607	16,487,895	△2,237,288
合計	19,295,607	19,275,033	20,574

大学入学試験合格者数

国公立大学					
大学名	令4年	令3年	令2年	31年	30年
東京大学	20	15	15	15	18
京都大学	16	24	25	23	16
大阪大学	10	13	17	13	13
神戸大学	9	17	17	20	14
東京工業大学		2	2	2	
一橋大学		1	3	1	1
岡山大学	5	17	10	8	9
その他	79	95	89	90	94
合格者計	139	184	178	172	165
内医学部医学科計	28	48	39	62	49

私立大学					
大学名	令4年	令3年	令2年	31年	30年
早稲田大学	20	22	19	25	15
慶應義塾大学	14	26	20	21	19
東京理大	11	8	14	8	6
関西学院大学	19	29	23	12	16
関西大学	12	17	6	4	8
同志社大学	38	57	31	44	43
立命館大学	26	34	28	15	23
その他	86	104	96	125	116
合格者計	226	297	237	254	246
内医学部医学科計	28	45	41	45	59

※「国公立大学合格者計」は準大学を含む。

編集後記

つきてみよ 一三三四五六七八
 (ひふみよいむなや)
 九(こむ)の十(とを)
 十とおさめて またはじまるを

てまり歌で知られる良寛さん(江戸時代後期の禅僧・歌人・漢詩人・書家)の歌です。「あめあめふれふれかあさんが・・・」の作者、北原白秋が自らの歌集に引用したことでも知られる歌です。この歌の手鞠を入手するほど白秋は感銘を受けていたようです。こどもたちが無邪気に数を数えながら毬をつく。十まで数えるとまた一から、その繰り返し。日々の生活も学びも同じで、終わることなく続いていくという教えを伝えた歌ともいわれます。コロナ禍で「日常」が大きく変貌してしまった感がありますが、無心に遊ぶこどもの心を忘れずに日々繰り返していけたらと思います。(T)

白陵会物故者

喜多川毅哉(二期生) 令和二年十二月逝去
 森本勝規(九期生) 令和四年四月 逝去
 小紫悠子(四十期生) 令和四年七月 逝去
 大崎章快(六期生) 令和四年十二月逝去
 重谷 茂(旧職員) 令和四年十一月逝去
 高山 擴(旧職員) 令和四年十月 逝去
 心よりご冥福をお祈りいたします。

橋本啓嗣(数学)

平成三十一年四月～令和四年三月

転退職教職員紹介

令和四年三月